

さい帯血情報

自家さい帯血を用いた安全性試験に参加された 自閉症スペクトラム障害児のお母様方の声

さい帯血情報Vol.95にてご紹介しました、米国Sutter Institute for Medical Researchによる自家さい帯血を用いた自閉症スペクトラム障害児に対する安全性試験の報告が、PR Newswireで紹介されています。(https://www.prnewswire.com/news-releases/cord-blood-stem-cell-study-shows-promise-for-autism-300595157.html)

今回の記事では特に、試験に参加した子供たちのお母様方のコメントが掲載されていたので、ここにご紹介いたします。



この研究に参加した自閉症スペクトラム障害児のご両親たちは、子供たちの症状の改善に喜んでいました。フロリダ州オーランドのJennifer Lundbergさんは、彼女の息子Hayden君がコントロールの生理食塩水とは対照的なさい帯血投与を受けたことが分かったと語りました。「私たちは、彼のトイレトレーニングを4年以上続けてきました。そうした中、さい帯血投与を受けた2週間以内に、彼は自分でトイレに行けるようになったのです。私たちはもう無理だと思っていました」と彼女は述べました。「彼は、以前はなかった言語についての理解を今は持っています。例えば、私が彼に空調用の空気取り入れ窓を開けるように頼んだら、彼は自分が何をすればいいのか瞬時に理解できます。以前はかんしゃく持ちだったのに、今はそれがありません。本当に素晴らしいです。もう一度投与を受けられるものなら、間違いなくもう一度受けたいと思います」。もう一人のお母様(匿名希望)も、幼い息子の症状が改善されたと証言しています。「彼の言語と社会性について、全体的に発達が進みました。投与は間違いなく助けになりました」。

米国CBR社は、脳性麻痺、自閉症、難聴およびI型糖尿病などの様々な疾患を治療するため、さい帯血を用いた研究を支援してきました。「Chez博士の研究成果は、自閉症児へのさい帯血投与を行っている他の研究の最近の成果に加えて、勇気づけられるものです」とCBR社の科学・医療担当副社長であるHeather Brown氏は語りました。「研究者が再生医療におけるさい帯血の可能性を引き続き探究するにあたり、CBR社は、この可能性をよりよく理解し、さい帯血の有用性を高める方法を検討するため、臨床試験の支援を続けて行く方針です」。



今回のさい帯血投与試験の結果は、臨床学術誌Stem Cells Translational Medicineで報告されています(Stem Cells Transl Med. 2018 Apr;7(4):333-341)。試験では重篤な副作用は無かったと報告されています。また、全ての項目で統計学的には有意差が無かったものの、ご両親と研究者が共に社会適応性の改善傾向を報告していることは、結果の信憑性を後押ししていると言えます。